

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●ホープフルSはクロワデュノールが優勝

2024年12月28日(土)に行われたホープフルS(G I)ではクロワデュノール(牡2歳/栗東・斉藤崇史厩舎)が優勝しました。

●堀宣行調教師がJRA通算800勝を達成

2024年12月28日(土)の5回中山9日・第1レースではアパッシメントが1着となり、同馬を管理する堀宣行調教師(美浦)は、史上42人目・現役7人目となるJRA通算800勝(延べ4913頭目)を達成しました。

●重賞ウイナー6頭の競走馬登録抹消

2021年京王杯2歳S(G II)の勝ち馬キングエルメス(牡5歳/栗東・矢作芳人厩舎/JRA通算10戦3勝・海外2戦0勝)、2023年阪神スプリングジャンプ(J・G II)などの勝ち馬ジェミニキング(騾8歳/栗東・庄野靖志厩舎/JRA通算27戦3勝)、2021年ニュージラードT(G II)などの勝ち馬バスラットレオン(牡6歳/栗東・矢作芳人厩舎/JRA通算18戦3勝・地方4戦0勝・海外7戦2勝)、2021年テレビ東京杯青葉賞(G II)などの勝ち馬ワンダフルタウン(牡6歳/栗東・高橋義忠厩舎/JRA通算17戦3勝)、2022年東京ジャンプS(J・G III)の勝ち馬ケイティクレバー(牡9歳/美浦・清水英克厩舎/JRA通算39戦8勝)、2019年京成杯(G III)の勝ち馬ラストドラフト(牡8歳/美浦・戸田博文厩舎/JRA通算26戦3勝)は、2024年11月8日(金)までに競走馬登録を抹消されました。バスラットレオンはトルコで種牡馬となり、キングエルメス、ジェミニキング、ワンダフルタウン、ケイティクレバー、ラストドラフトは乗馬となる予定です(年齢は抹消時)。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●フォーエバーヤングが東京大賞典(大井)で国内無敗を継続

東京大賞典(G I、12月29日、大井、2000^米)は、2番手を追走したフォーエバーヤング(坂井瑠星騎手、牡・出走時3歳、父リアルスティール)が直線に入って間もなく抜け出し、単勝1.3倍の圧倒的サポートに応えました。2番人気のウィルソンテソーロが1馬身3/4差の2着、ラムジェットが3着、3番人気の前2年の覇者ウシュバテソーロが4着、グランプリッジが5着、デルマソトガケが6着、逃げたクラウンプライドが7着と、7頭出走したJRA所属馬が上位を独占しています。

●東京大賞典の1レース、1日の売上が地方競馬新記録を更新

東京大賞典の売上は、前年比114.5%の94億9207万7400円で、地方競馬の1レースの売上記録となりました。うちJRAネット投票は51億9160万5700円と、全体の54.7%を占めています。また、当日の12月29日の売上は、前年比112.1%の139億5566万8250円となり、こちらも地方競馬の1日の売上の記録を更新。JRAネット投票は67億2427万5500円で、構成比は48.2%でした。

●2024年地方競馬リーディングは打越勇児調教師、森泰斗騎手

2024年の地方競馬リーディングは、トレーナーが232勝で打越勇児調教師(高知)、ジョッキーは295勝の森泰斗騎手(船橋、引退)でした。また、地方競馬リーディングサイアーは総合がシニスターミニスター、2歳はホッコータルマエとなっています。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●G1マリブS～レージングトレントがG1初制覇

現地2024年12月26日にアメリカ・カリフォルニア州のサンタアニタパーク競馬場で行われたG1マリブS(3歳、ダート1400^米)は、L.デットーリ騎手が手綱をとったレージングトレント(牡3歳、父マキシマスミスターフ、D.オニール厩舎)が先行策から直線半ばで抜け出して優勝しました。1馬身1/4差の2着にG1サンタアニタダービーの勝ち馬ストロングホールド。ケンタッキーダービー馬で、6月のG1ベルモントS(8着)以来の休み明けとなったミスティックダンは最下位6着に終わりました。勝ったレージングトレントは今年8月のG2パットオブライエンS(ダート1400^米)で重賞初制覇。続く1200^米の前走G1BCスプリントは7着でしたが、距離を戻して巻き返しました。

●G1アメリカンオークス～シーフィールズブリティがG1・3勝目

上記マリブSの3レース後に同じサンタアニタパーク競馬場で行われたG1アメリカンオークス(3歳牝、芝2000^米)は、J.ヴェラスケス騎手を背に先行したシーフィールズブリティ(牝3歳、C.ドゥヴォー厩舎)が3コーナー過ぎで動いて先頭に躍り出ると、2馬身半差で優勝しました。シーフィールズブリティはG1仏2000ギニーやG1BCマイルを制した日本産馬カラコンティ(母の父がサンデーサイレンス)の産駒。これで2歳9月のG1ナタルマS(芝1600^米)、6馬身差で圧勝した10月のG1クイーンエリザベス二世チャレンジカップS(芝1800^米)に続くG1・3勝目となりました。